

令和6年度事業運営方針

1 良質な医療の提供

(1) TQM活動の取り組み推進

○診療科横断的プロジェクトチームの編成と各種データの収集

○クリニカルパスを活用した医療の質の向上

・アウトカム志向パスへの移行

・チーム医療の推進(多職種での目標・プロセスの可視化・共有化)

・インフォームドコンセントの充実(患者参加型医療の提供)

・医療ケアの標準化

○手術ロボット導入準備(多職種で構成するWGIによる導入準備)

○音楽療法導入推進

(2) 多職種チーム医療の推進

○最大の成果を出すためのチーム活動

(3) 患者・家族に寄り添った医療の提供

○意向をしっかりと聴き取るシステム、意思決定支援のシステム構築

○臨床倫理カンファランス推進

○身体拘束最小化チームの構築

○ACPの推進

○メディエーションスキルの習得と普及

(4) 安全・安心な医療の提供

○医療安全対策の推進・強化

・ポリファーマシー対策の推進(薬剤科でのパターン分析)

・心理的安全性確保による情報共有促進

○感染管理対策の強化

・新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取り組み

○臨床研究・治験支援体制整備

(5) 地域連携の強化による高度急性期病院としての機能維持

○入退院支援センターの機能拡張と強化

○ICT活用による県立病院間、あるいは地域医療機関との連携の効率化

・オンラインで可能な業務の拡大と効率的運用の推進

○病・病連携の推進

令和6年度事業運営方針

・入院患者の早期転院戦略(肺炎バスや尿路感染症バス等の普及、患者に納得して退院してもらえる仕組み作り)

○病・診連携の推進、医科・歯科連携の推進

・再来患者数の適正化

・逆紹介戦略、「病院」から「かかりつけ医」への流れを強化

○急性期病院としての地域包括ケアシステム参画

・介護機関との情報交換強化

○地域住民の自己健康管理意識促進(ホームページからの情報発信や健康講座による啓発活動)

○病院ホームページ等の活用による情報発信の強化

・ホームページのリニューアル検討

(6) 病院機能評価の更新受審による医療の質向上

(7) 新病院構想の検討開始

・情報収集と先進的施設の見学

2 次世代医療人の育成

(1) 臨床研修医、専攻医の育成システムの確立

○臨床研修医の確保及び専攻医獲得戦略の検討

・フルマッチを目指したリクルート活動の推進

・専門分野に専念し十分な専門性熟達を得られる体制整備

(2) 全職域における計画的な人材育成推進

○各職域のキャリアデザインによる専門資格職員の計画的育成と支援

○特定行為に係る看護師の計画的育成支援

○ベテラン医師のセカンドキャリア形成支援

・各領域の専門性を持ったシニア医師が総合診療医となるキャリアモデル構築(ジェネラリストとして院内で活躍し、更に地域病院でも活躍してらえるような枠組み作り)

○OBSなど全職員に対する教育の強化

(3) 各分野における先駆的取組施設との交流

(4) アカデミック部門構想の検討

3 地域医療への貢献

(1) 地域における診療体制の確保

○県立病院間、へき地診療所等への診療応援及び医師派遣の継続

・医師の働き方改革、救命救急センター等の算定要件にも対応可能な支援体制の構築

(2) 診療機器の有効利用促進

令和6年度事業運営方針

○画像提供、遠隔病理、機器共同利用の促進

(3)地域の医療従事者等に対する研修の実施

4 救急医療の充実

(1)救命救急センターの体制及び機能の強化

○救急医療科の組織体制強化とER病棟の運用確立

○機能評価(高度・専門機能評価)の更新受審による業務改善、質改善

(2)救急科と総合診療科との連携強化による救急体制の最適化

(3)救急医療に関する教育活動と専門医の確保・育成

5 災害医療の体制整備

(1)様々な災害を想定した医療体制の構築と強化

○自然災害、CBRNE災害、火災、サイバー攻撃等への対応準備

(2)BCP(事業継続計画)を活用した取り組み

○上記災害を想定した災害訓練等の実施

(3)DMATによる災害医療支援体制の確保と後継者育成

○DMAT隊員の計画的育成とチーム機能維持に係る研修会への参加支援

6 健全で効率的な病院運営

(1)経営分析手法の流れの確立

○経営分析の強化

・パス分析、原価計算、ベンチマーク比較等新たな分析の枠組み構築

・DPC係数向上に向けた分析と分析結果のフィードバック

○経営改善戦略の構築

・患者動向を見据えた診療体制、病床の戦略的見直し

・診療報酬の算定漏れ防止、高加算病床の有効活用、パスによる標準化

○新規・上位施設基準の早期取得の促進

○資産の有効活用等による収益の確保

・不用品の廃棄推進によるスペース創出とスペースの有効活用

・外来診療室の流動的運用の検討

○コスト意識定着のための情報提供

(2)医療DXの推進

○院内情報伝達手段の効率化

令和6年度事業運営方針

○電子カルテ更新に向けた準備

・効率的な診療を可能にする電子カルテの運用体制の構築

○オンライン診療の実施検討

7 魅力ある職場環境整備

(1) ハラスメント対策の推進

○アンガーマネジメント

○メンタルタフネス

○患者・家族からの院内暴力対策

(2) 新しい働き方の実践

○限られた資源の中でも機能する働き方への変革

○院内業務の効率化と負担軽減(タスクシフト・タスクシェア)の推進

・グループ診療等による適切な休養確保

・各種会議等の効率化や勤務時間内開催の徹底

○医師事務支援室の体制整備の推進

・医局主導によるマネジメントの推進

・全体最適と組織の活性化を目的とした人材の有効活用

・自己キャリアパスの確認と評価方法の確認

(3) 健康管理体制の充実

○適切な労務管理の推進(時間外の上限規制、面接指導、休息時間の確保等)

○メンタルケアの充実